

# 小型電気温水器 (元止め式)

EHMN-T1SC1-300C

商品の機能が十分発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。  
この説明書は、施工完了後、お客さまにお渡しください。  
また定期的な点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。



このQRコードは  
メーカー管理用です。

## 施工時には必ずお守りください

以下は安全のための注意です。施工前に必ず読み、施工時に必ずお守りください。  
この説明書では、誤った施工による事故を未然に防ぐため、工事者または使用者の安全に関する注意事項にマークをつけて表示しています。

マークの意味は次の通りです。施工前によく読み正しく施工してください。

### ●用語および記号の説明

|  |           |   |
|--|-----------|---|
|  | <b>警告</b> | 作業を誤った場合に、設置作業者が、又は設置工事の不具合によって人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。    |
|  | <b>注意</b> | 施工を誤った場合に、人が傷害を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。       |
|  |           | 「注意しなさい！」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。) |
|  |           | 「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)                                  |
|  |           | 「指示通りにしなさい！」(一般的な行動指示記号です。)                               |
|  |           | 「必ずアース接続をしなさい！」   |

## 警告

- アース工事は電気設備技術基準等、関連する法令・規則等に従って、必ず「法的有資格者(電気工事士)」によるD種接地工事(100Ω以下)を行ってください。また漏電遮断器を設置してください。  
※故障や漏電時に感電の恐れがあります。
- 使用する電源、消費電力を本体の定格銘板で確認し、必ず適した配線をしてください。  
※火災の原因となります。
- 屋外には設置しないでください。  
●屋内でも水がかかったり、表面に結露が生じたりするような湿気の多くなる所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。  
※故障や感電の原因となります。
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解・修理は行わないでください。  
※火災や感電の原因となります。
- 内部配線や電源コードの切断・圧着は絶対に行わないでください。  
※感電や火災の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。  
※電源コードが破損し、感電・火災の原因となります。
- 水道水(水道事業者が供給する上水)以外の水を使用しないでください。  
※早期に機器が破損し、感電・漏水の原因となります。

## 注意

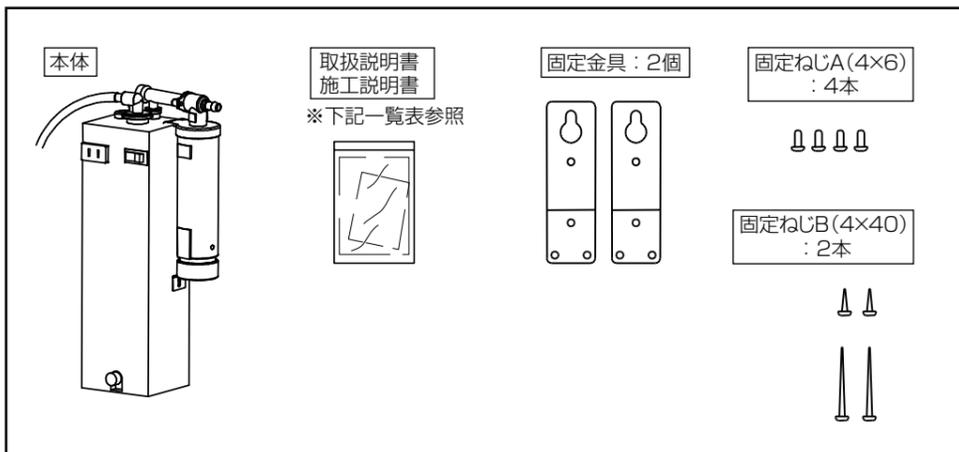
- 必ず機器内のタンクを満水にしてから、運転スイッチを「入」にしてください。  
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。
- 機器を横にしたり、上下を逆にした状態で設置しないでください。  
●車両や船舶内に設置しないでください。  
※機器の故障、ヤケド、漏電、漏水の恐れがあります。
- この機器は太陽熱温水器や、他の給湯機器との接続はしないでください。  
※機器が破損し、漏水の恐れがあります。
- この機器は、給水圧力0.1(流動時)~0.75MPa(静止時)の範囲でご使用ください。  
※水圧が高い地域に設置した場合、止水時に缶体内部の水圧が高くなり、膨張水口から水がふき出し続ける恐れがあります。
- この機器の周囲温度が氷点下になるところには設置できません。  
※機器やホースが凍結すると部品が破損し、漏水の恐れがあります。
- 新築・改修工事後や、水道断水の復旧後、必ず配管内の空気を抜いてください。  
※配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、けがをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
- 機器に強い力や衝撃を与えないでください。  
※故障や漏水の原因となります。
- 飲用や調理への使用は避けてください。  
※場合によっては体調をくずす恐れがあります。

## 1.仕様

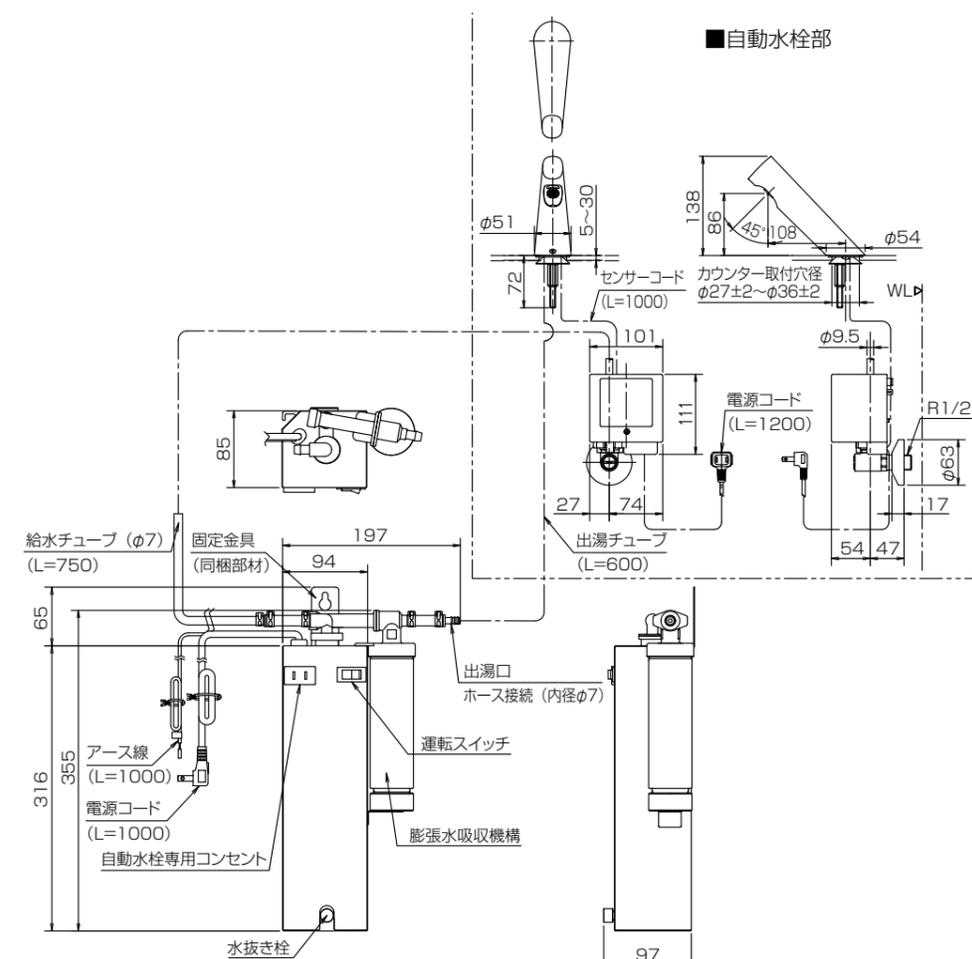
|               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 品番            | EHMN-T1SC1-300C           |
| 本体寸法(突出部寸法含む) | 幅197mm×奥行97mm×高さ355mm     |
| 本体質量(満水時)     | 約2kg(約2.8kg)              |
| 給水方式          | 元止め式                      |
| 使用水圧範囲        | 0.10MPa(流動時)~0.75MPa(止水時) |
| 使用可能雰囲気温度     | 0~40℃(ただし凍結しないこと)         |
| 定格電圧          | AC100V(50/60Hz)           |
| 消費電力          | 350W                      |
| 出湯温度          | 約36℃(温度範囲33~43℃)          |
| 電源コード         | 約1m、アース線タイプ               |
| タンク容量         | 約0.8L                     |

## 2.同梱品一覧

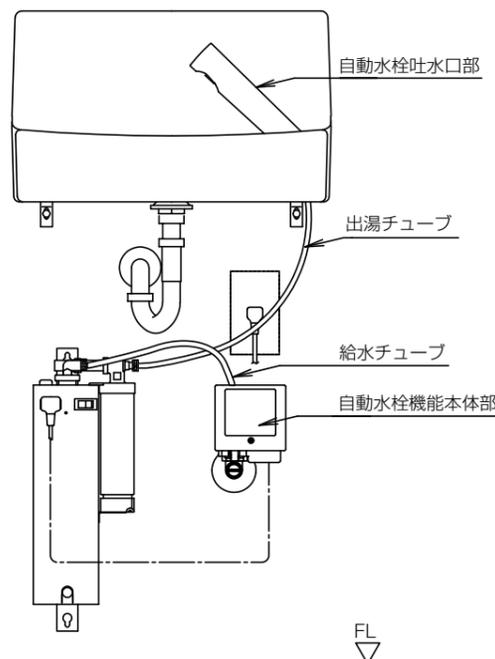
施工前に同梱部品を確認してください。



## 3.寸法図



## 4.標準施工図例



## 5. 施工前の注意

### 取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、モンキーレンチ、専用工具「KG-23」もしくはソケットレンチ（呼び13）、プライヤー、マイナスドライバーが必要です。

### 取付可能洗面器

- 水栓を取り付ける陶器が総合カタログの『自動水栓と洗面器・手洗器の組合せ一覧表』に記載があることを確認してください。
- ※記載のない洗面器・手洗器へ取付けると、自動水栓が誤作動する場合があります。

### 壁に設置する場合の注意

- 落下防止のため、取付部材や壁面の構造等について以下の取付条件をお守りください。

#### 【乾式壁の場合】

- ・壁面への取付けは同梱の固定ねじを使用してください。
- ・ねじ込み深さが20mm以上になるように取付木（補強木）を設けてください。
- ・石膏ボード等のボード張りにはタッピンねじはききません。
- 必ずあらかじめ壁裏に取付木を入れ、ねじ込み深さを確保してください。（ボード張りの厚さは12.5mm以下を想定しています。）

#### 【湿式壁の場合】

- ・取付部材として固定ねじ（呼び径4×40mm）にあうプラグを準備してください。
- ・壁仕上材（モルタル、モルタル+タイル等）の厚さは20mm以下としてください。
- ・ALC板やコンクリートブロックの中空部にはAYボルトは固定できません。
- ・木張り下地、ラスボード下地への取付けは、乾式壁と同じようにあらかじめ壁裏に取付木を入れ、必要なねじ込み深さを確保してください。

### その他の注意点

- ・開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように注意してください。
- ・機能本体部は必ず正しい向きに取り付けてください。
- ※横にしたり、逆さに取り付けると誤作動の原因となります。
- ・電気製品ですので機能本体部に水をかけないように注意してください。
- ・電源コードの長さは1mです。コンセントは電源コードの届く範囲で設置してください。
- ・センサーの表面を傷つけないように十分ご注意ください。
- ・水栓の機能を十分に発揮させるため、必要な場合定流量弁を取り外し、流量調節栓を絞ってください。（「8-2 流量の確認」の項参照）
- ・インバーター照明により誤作動する場合があります。
- ・直射日光が当たらないところに設置してください。

## 6. 取付け手順

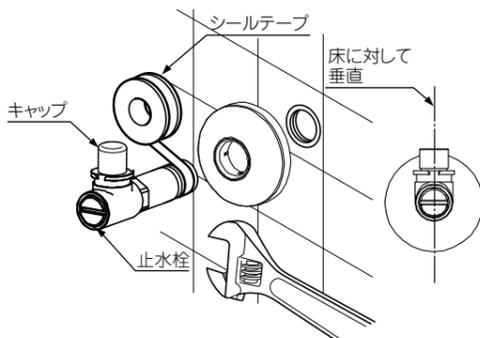
※電気温水器を取り付ける前に、洗面器等をそれぞれの施工説明書に従って取り付けてください。

- <取付けの流れ>
- ①専用自動水栓の取付け
  - ②機器の設置
  - ③機器への配管

### 6.1. 止水栓の取付け

配管位置を確認し、止水栓を取り付ける。

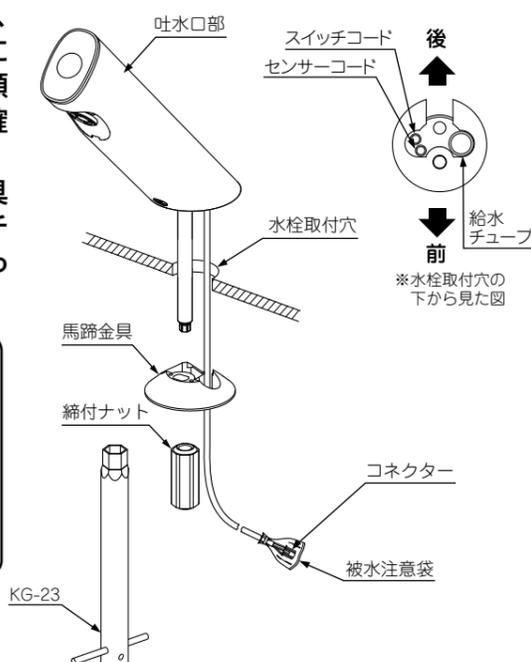
- ⚠ **注意**
- キャップは機能部を接続するまで取り外さないでください。
  - ※キャップ内のOリングが傷つき、漏水の原因になります。



### 6.2. 専用吐水口部の取付け

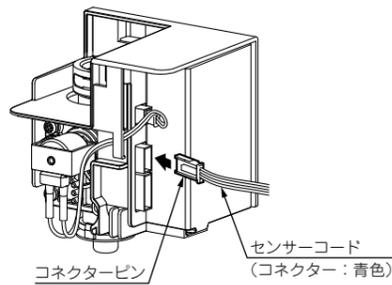
吐水口部を水栓取付穴に挿入し、馬蹄金具、締付ナットを吐水口部に取付け、給水チューブ、コード類の位置を水栓取付穴の下から確認し、手締めで仮固定する。吐水口の向きを調整し、専用工具「KG-23」もしくはソケットレンチ（呼び13）を用いて吐水口部をしっかりと固定する。

- ⚠ **注意**
- コネクターの被水注意袋は、機能部に接続するまで取り外さないでください。
  - ※コネクターが傷つき、故障の原因になります。

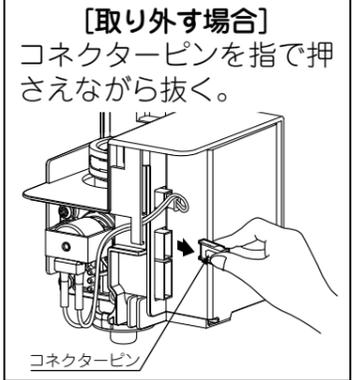


### 6.3. コードの接続

①センサーコード（コネクター：青）のコネクターピンを外側に向けて機能部のコネクターに差し込む。

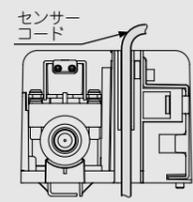


- ⚠ **注意**
- 濡れた手で触れたり、水がかからないように行ってください。
  - ※故障の原因になります。

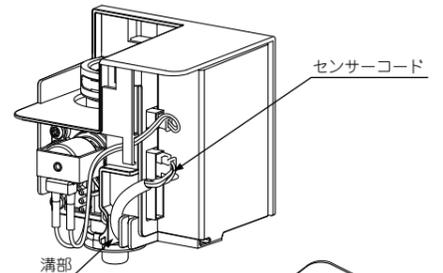


②センサーコードを溝部に沿ってはめ込む。

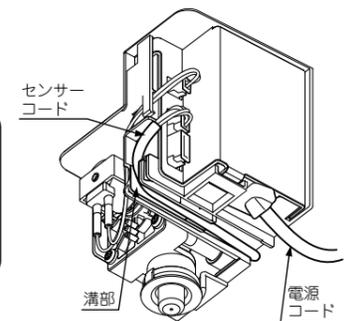
太いコードがセンサーコードであり、正面からみて左側の溝部にはめ込む。



※底面図（太）左（細）右

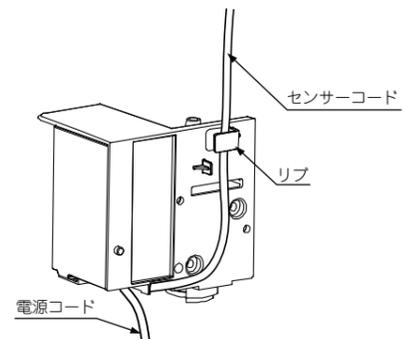


- ⚠ **注意**
- 裏側までしっかりはめ込んでください。
  - ※コードが溝部にはまっていなくてフロントケースの取付け時にコードを挟み込み、コードが断線する恐れがあります。



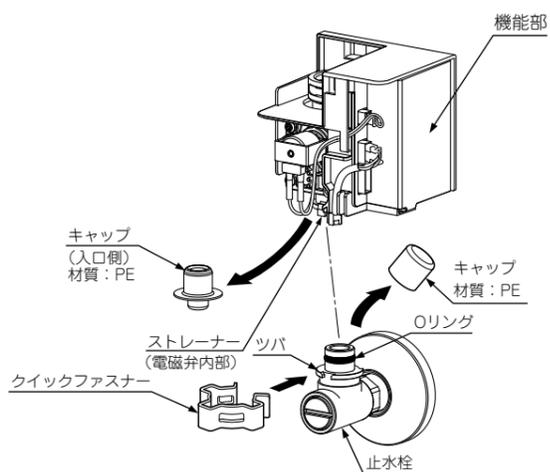
③センサーコードを機能部の裏のリブに収める。

- ⚠ **注意**
- 電源コードはリブに収めないでください。
  - ※故障の原因になります。



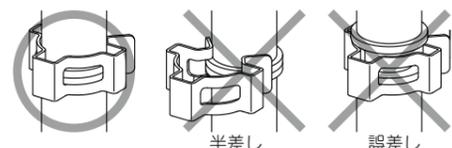
### 6.4. 機能部の取付け

①止水栓のキャップと機能部の入口側のキャップを取り外し、機能部が正面を向くように止水栓のツバと機能部のツバが接するまで差し込む。



- ⚠ **注意**
- Oリングを傷つけたり、ゴミがみしないように行ってください。
  - ※漏水の原因になります。
  - 誤ってストレーナーを外さないでください。
  - ※ゴミが電磁弁内に入り、故障の原因になります。

②付属のクイックファスナーを接続部（ツバ部）にはめ込む。



- ⚠ **注意**
- 確実にはめ込んでください。
  - ※しっかりはめ込んでいないと漏水やクイックファスナーでケガをする恐れがあります。

かるく機能部を上げて、クイックファスナーが外れないこと。

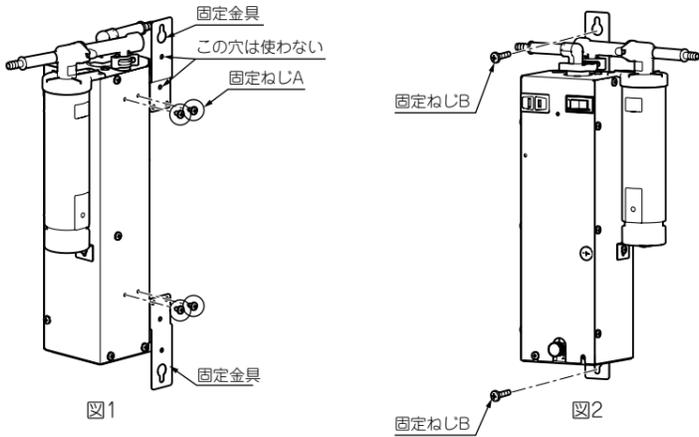
## 6.5. 機器の設置

①固定ねじA(4×6)で、機器背面に固定金具を取り付ける。(図1)

⚠ 注意

- ねじの取付け、取外しは手回しドライバーで行ってください。  
※インパクトドライバー等を用いると、ねじ部の破損の恐れがあります。
- ねじの種類を間違えないでください。  
※機器が破損する恐れがあります。

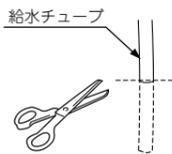
②固定ねじB(4×40)で、機器を壁面に固定する。(図2)



## 6.6. 配管の接続

①給水チューブ、出湯チューブが折れ曲がらないように必要な長さを確認し、切断する。

給水チューブ、出湯チューブは水平に切断する。



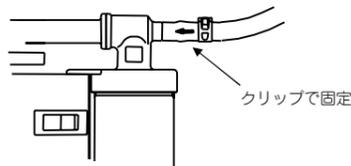
⚠ 注意

- 給水チューブの取付けには必ず順序を守ってください。  
※漏水の原因になります。
- 必ず給水チューブの必要な長さを確認してください。  
※給水チューブが長すぎると折れ曲がり流量が出なくなる恐れがあります。

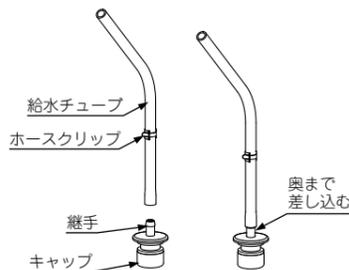
②自動水栓吐水口からの出湯チューブを機器の出湯口に差し込む。



③プライヤー等で、出湯チューブをホースバンドで固定する。

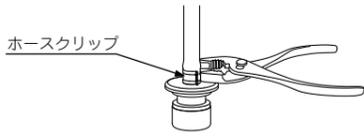


④機器給水口からの給水チューブを自動水栓機能部の継手に差し込む。



⑤プライヤー等を使用し、ホースクリップで固定する。

プライヤー等でホースクリップのツバ部分を挟み、ホースソケット段部上へ移動させる。

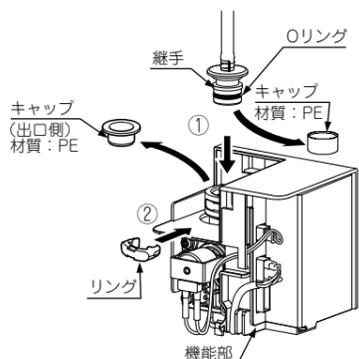
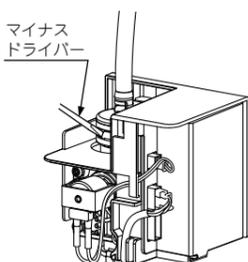


⑥機能部の出口側のキャップ、継手のキャップ、リングを取り外し、機能部の出口に継手を差し込み、リングで固定する。

⚠ 注意

- リングに傷をつけたり、ゴミかみしないように行ってください。  
※漏水の原因になります。

【取り外す場合】  
継手を外す時は、小型のマイナスドライバーでリングを抜き取る。

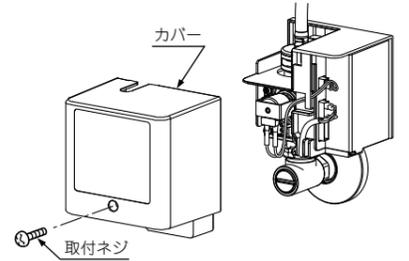


## 6.7. カバーの取付け

カバーをはめ込み、プラスドライバーで付属の取付ネジを固定する。

⚠ 注意

- コードをカバーで挟み込まないでください。  
※コードが断線する恐れがあります。



## 7. 電気工事

⚠ 注意

- 漏電遮断器を必ず設置してください。
- 必ずアースを接続してください。
- アース工事は電気設備技術基準等、関連する法令・規則等に従って、必ず「法的有資格者(電気工事士)」によるD種接地工事(100Ω以下)を行ってください。  
※故障や漏電時に感電の恐れがあります。
- 内部配線や電源コードの切断・圧着は絶対に行わないでください。
- 内部配線や電源コードを補修する必要がある場合は、現場で加工せず専用補修部品と交換してください。
- 使用する電源・ヒーター能力(定格消費電力)を本体の定格銘板で確認し、必ず適した配線をしてください。また電源プラグの変更は絶対に行わないでください。
- コンセントの電圧を必ず確認してください。100V用コンセントに200Vが供給されている場合は、電気工事をやり直してください。  
※感電や火災の原因になります。
- アースターミナルのないコンセントには接続しないでください。すでにアースターミナルのないコンセントが設置されている場合はコンセントを付け替えてください。コンセントの付け替えが困難な場合はアースターミナル付変換アダプター(定格125V・15A/参考:パナソニック品番WH2881P)を別途で準備のうえ接続してください。  
※故障や漏電時に感電・火災の恐れがあります。

①アースターミナル付接地極付コンセントを準備する。

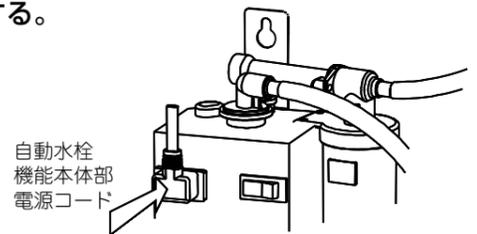
②コンセントにD種接地工事を行う。

※EHMN-T1SC1はヒーター通電時100V/350Wの電力を消費します。

## 8. 施工後の確認・処置

### 8.1. 配管の接続

- ①給水チューブが確実に接続されていることを確認する。
- ②止水栓を開ける。
- ③運転スイッチが「切」の状態を確認する。
- ④自動水栓機能部の電源コードを、機器本体のコンセントに差し込む。



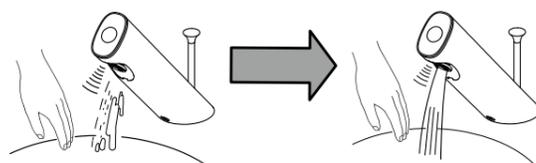
⑤機器本体の電源コードをコンセントに差し込む。

電源プラグを接続するとただちに感知距離を自動設定します。(約10秒間)

- ※陶器内に物が置かれていたり、センサーに手をかざされたりすると感知距離が最適に設定されません。
- ※感知距離を再設定したい場合は、センサーコードのコネクターを一度抜き再度接続してください。

⑥吐水口の下に手をかざして通水する。

**吐水が安定するまで続けてください**



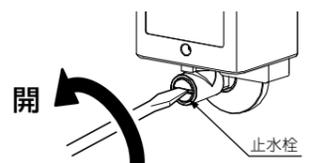
吐水口の下に手をかざし続けてください。止水したら、再度手をかざし、吐水が安定するまで続けてください。

⑦各接続部から漏水がないことを確認する。

### 8.2. 流量の確認

マイナスドライバーで止水栓を回し全開にする。

- 節水のため定流量弁を装着しているため、一定以上の流量(3L/分以上)は出ない。
- 流量の目安は500mLの容器いっぱいにするのに約10~15秒。



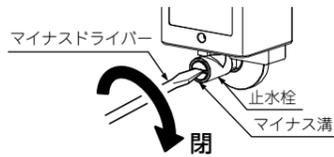
### 8.3. ストレーナーの掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、ストレーナーの掃除を行ってください。

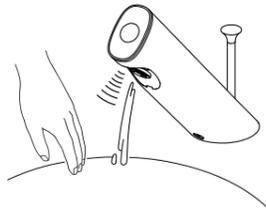
①止水栓を閉じる。

⚠ 注意

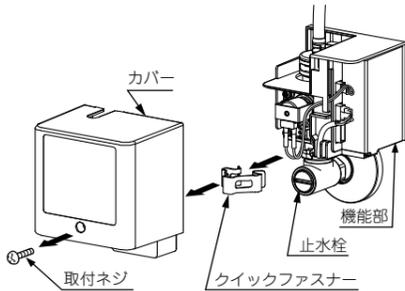
止水栓のマイナス溝は樹脂製のため、マイナス溝にあったマイナスドライバーを使用してください。  
※マイナス溝に傷をつける恐れがあります。



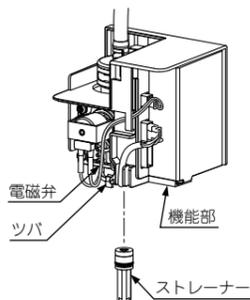
②手を差し出し、センサーを感知させ、止水確認、圧抜きをする。



③カバー、クイックファスナーを取り外し、機能部を止水栓から取り外す。



④電磁弁の中に収まっているストレーナーを取り出し、ストレーナーのゴミ等を洗い流す。



### 8.4. 機器への通電

⚠ 注意

必ず機器内のタンクを満水にしてから、運転スイッチを「入」にしてください。  
※機器の破損や、ヤケドの恐れがあります。

①電源プラグをコンセントに確実に差し込む。

②運転スイッチを「入」にする。

通電ランプが点灯します。



【通電ランプが点灯しない場合】

空だき等の原因で安全装置が作動した可能性があります。

①運転スイッチを「切」にし、機器本体電源プラグをコンセントから抜く。

②リセットカバーをドライバーで取り外し、安全装置の中央ボタンを押す。

※ボールペンの先などで、安全装置の中央ボタンを押します。

⚠ 注意

必ず運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてから作業をおこなってください。  
※感電の恐れがあります。

③機器本体電源プラグをコンセントに差し込む。

④再度通水確認後、運転スイッチを「入」にし、通電ランプが点灯することを確認する。

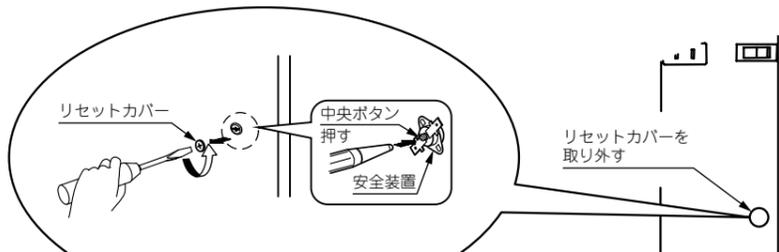
⑤取り外しと逆の手順でドライバーを用いリセットカバーを取り付ける。

【取外し時、取付け時の注意】

取外し時：リセットカバーを反時計方向に回すと、約1回転で外れます。

取付け時：リセットカバーを時計方向に回すと、約1回転で取り付きます。

※リセットカバーの締め込みすぎに注意してください。



### 8.5. 感知距離の再設定

センサーの感知距離は、センサーに電源が投入されたとき、または長時間にわたり水栓の使用がないときに調整を行います。感知距離が短いと感じた場合、以下の要領で再設定を行ってください。

①センサーに水や汚れがついていないことを確認する。ついている場合は、柔らかい布で水・汚れをぬぐい取り、再度感知距離を確認し、感知距離が問題なくなった場合、そのままご使用可能。

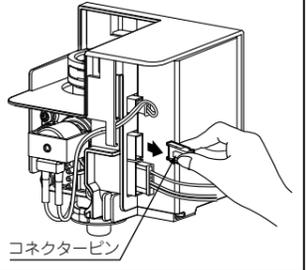
②機能部のフロントケースを取り、センサーコード（コネクター：青色）を一度取り外し、再度接続し、10秒経過すると設定完了する。

※再設定しても検知距離が変わらない場合、感知距離は最適な条件に設定されています。

⚠ 注意

再設定時に陶器内に物が置かれていたり、センサーに手をかざされたりすると感知距離が最適に設定されません。

【取り外す場合】  
コネクターピンを指で押さえながら抜く。



### 9. 水抜き方法

施工後の確認後、引渡しまでに凍結の恐れがある場合は、以下の要領で機器内の水を抜いてください。

①運転スイッチを「切」にする。

②吐水口の下に手をかざし、吐水が水になるまで流す。

⚠ 注意

必ずタンク内が水になっていることを確認してから水抜きを行ってください。  
※高温の湯によりヤケドの恐れがあります。

③電源プラグをコンセントから抜く。

④止水栓を閉める。

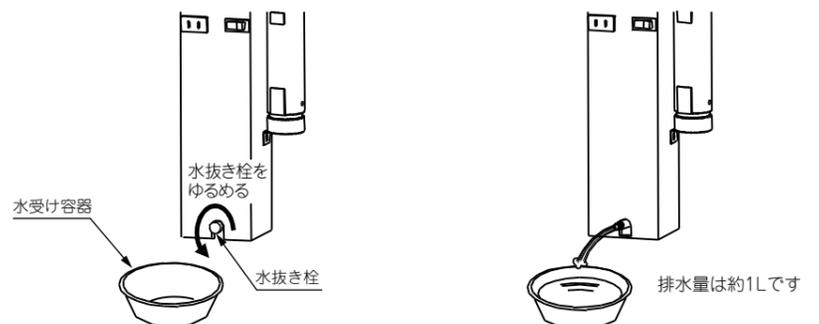
⑤キャビネット裏板に固定した固定ネジBを緩め、電気温水器本体をキャビネットから取り外します。（「6.5.」機器の設置」を参照）

⑥洗面器等で排水した水を受ける準備をする。

⑦水抜き栓をゆるめて排水する。

⑧水抜き後、水抜き栓を右にいっぱいまで締め、電気温水器本体をキャビネットに再度固定する。

⑨自動水栓の取扱説明書に従って、自動水栓の水抜きをする。



### 10. 施工後の最終確認

全ての作業完了後、下記の表に従って最終確認をしてください。

| 確認事項 | 確認内容  | チェック欄 |
|------|---|-------|
| 電源電圧 | 施工した機器に合った電圧がコンセントに供給されているか                   |       |
| 漏水   | 内部の配管・タンクや配管接続部から漏水がないか                       |       |
| 流量   | 施工説明書に合った流量になっているか<br>※流量が少ない場合は、ストレーナーの掃除をする |       |
| 保証書  | 必要な内容を記載したか                                   |       |

確認後、取扱説明書、施工説明書をお客さまにお渡しください。

株式会社 LIXIL

お問合せ先

お客さま相談センター商品相談窓口

ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間平日 9:00～18:00

土日・祝日 9:00～17:00

(ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く)